「風のマルシェ」の野菜は、鳥取市内などへ配達もしている。月２回の配達を楽しみにしている顧客は多い。現在は、農薬・化学肥料不使用または減農薬の野菜や果物を販売しているが、今後は100％オーガニックをめざしたいという。

第2回

地方で働く人の登竜門

地域おこし協力隊のリアルライフ

地方への移住とローカルワークのきっかけをくれる「地域おこし協力隊」。
今回は、個性的なメンバーが集まる長野県の「天龍村ありが隊」と
体験会、野菜の直売など、幅広く活躍する鳥取県八頭町の渡辺さんにお話を伺いました。

文：澤田幸美（P.44 ～ 45）、久保田香織（P.46 ～ 47）　写真：林達也（プレスカラー／ P.44 ～ 45）、前田聡子（P.46 ～ 47）　イラスト：中村隆

case 1

鳥取県八頭町（やずちょう）　渡辺萌生（もえ）さん

多彩な活動で地域活性化の新しいキャリアデザインを構築

山々に囲まれ、豊富な自然に恵まれる、鳥取県八頭町。渡辺萌生さんは、八頭町の北部にある志子部（しこべ）集落で、地域おこし協力隊員としてさまざまな取り組みをしている。

渡辺さんの生まれは、東京都調布市。東京の大学に進学し、国際協力について勉強していた。ところが、卒業間近の２０１１年３月、東日本大震災が発生。心境に変化がおこる。

「関東圏でなにかあったとき、西日本に移動してきた人たちを受け入れる場所や体制をつくっておいたほうがいいな、と思ったんです」

その後、農林水産省の事業である「田舎で働き隊！」を利用した智頭町での活動を経て、２０１２年４月に地域おこし協力隊として活動を始める。現在は、志子部に暮らす人々と一緒に活動中だ。

渡辺さんの活動は、古民家施設「共生の里　しこべの家」の活用や稲刈り体験交流会の開催、特産品開発などさまざま。体験交流会のおもな内容は、米や野菜の種まきや収穫体験だ。２０１４年９月21日（日）に行った「しこべの稲刈り体験交流会」には、地域外の子どもたちも参加した。この日は、収穫後に、参加者と地域住民が「しこべの家」で食卓を囲み、川遊びを楽しんだ。

特産品開発では、米粉ともち米、あんこをつかった「かま焼き」を、お母さんたちと生産。近年、家庭内でつくられることが少なくなったこの鳥取の伝統食を、イベント時に、「しこべのかま焼き」として販売するなど、地域活動を行っている。ほかにも、「各農家の野菜を組み合わせて販路を拡げたい」という地元若手農家とともに、「風のマルシェ」という生産者グループを設立。八頭町内の直売所で、八頭町を中心とした鳥取県産の野菜や特産品を販売するほか、東京のイベントでＰＲしたり、関東・関西方面への宅配も行っている。

「野菜の宅配や、東京のイベントへの出品をとおして、お客さんやほかの出品者など、いろいろな人とのつながりができました。地域の方々も、最初はこんなところに若者がなにをしに来たのだろう、といった様子でしたが、だんだん助けてくれるようになりました。いつ体験者が訪れてもいいように、梅や柚子の木をきれいに剪定したり、〝今度、しいたけを植えてみよう〟といったアイデアが出てきたり。これまでは私から働きかけをしていたのですが、いまでは、地域の方々の活動を私がサポートするポジションにシフトしてきています」

２０１４年の４月には、隼駅まえに野菜の直売所・地元産の食材を使った地産池消カフェ「ＨＯＭＥ８８２３」（はやぶさ）をオープンさせたり、「しこべの家」を宿泊施設にする計画を進めるなど、とどまるところを知らない渡辺さんだが、地域おこし協力隊として初めて八頭町へ来たときから〝なんかいいな〟と感じていたそう。

「八頭町にはリーダーシップをとる人が多いわけではないのですが、地域の方みんなが、いろんな視点で考えていると思います。私がここに来たとき、協議会の皆さんは〝なんでも好きなことをやってみるといい〟とアドバイスしてくれました。私自身もやりたいことをやれて毎日が充実しています」

自治体が公募し、地域おこし協力隊を受け入れるケースが多いなか、八頭町は地元の協議会が自治体へ働きかけ、受け入れることになった地域。渡辺さんのように、協議会のバックアップを生かして何足ものわらじを履きつつ、生き生きと働く若者が、今後も八頭に現れるだろう。

（上）「風のマルシェ直売所」では鳥取県産の塩や茶などおすすめの特産品も販売。（左下）「風のマルシェ直売所」の店長や、隣接するカフェ「HOME 8823」のスタッフとともに。（右下）活動拠点にもなっている「共生の里　しこべの家」。

渡辺さんへの 10 Questions！

志子部集落の自立をめざし、「田舎っぺマネージャー」として、地域総合型ビジネスの構築に携わっています。

おもな業務はなんですか？

志子部集落の古民家施設の活用や農業などの交流体験者の受け入れ、特産品開発、野菜の販路開拓などを行っています。

お給料はいくらですか？お給料日はいつですか？

給料日は毎月21日で、給料は16万6000円。

一日に何時間働いていますか？

平均９時間です。夕方から夜にかけては地域の方々とのミーティングが多いですね。

ほかの協力隊とのつながりはありますか？

鳥取県岩美郡岩美町の協力隊とのつながりがあります。海が近いので、友人が遊びに来た時に交流させてもらうこともあります。

地域の方とのおもしろエピソードを教えてください。

雪が多い地域なので、スーツを着ても、足元は長靴だったり。あと、きゅうりを洗濯機で脱水するおばあちゃんがいます（笑）。

任期中に自分の力を存分に発揮するための心がまえは？

なにをするにしても、地域の人たちの声を大切にしています。自分もみんなも楽しみながらやりがいを持てる状況を考えています。

地域に入っていちばんうれしかったこと、いちばんつらかったことは？

自分の存在価値を認めてもらったことがなによりうれしいですね。発言に向き合ってくださったり、あたたかな声が励みになります。

ズバリ！　充実度は何％ですか？

100％と言いたい反面、就任3年目ということもあり、地域の人へこの先のビジョンをどう説明するか不安な気持ちもあります。もっと充実させられると思っています。

任期が終わったあとの展望をお聞かせください。

自分が興味のある分野で稼ぎながら生活することに挑戦したいですね。いまやっている、森林セラピーの勉強も生かしたいです。

地域おこし協力隊予備軍へメッセージをお願いします。

地域のしがらみが逆に新鮮なことも。よそ者である立場を生かしながら活動できたら、視野が広がるかもしれません。